

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ① 発見と感動により、学ぶことの喜びや大切さを教え、教職員が一丸となって生涯学習を可能にする確かな学力と意欲を育成する。
- ② 生徒一人ひとりが自己の価値に気付き、自尊心を高め、夢や希望の実現に向かって健康的で人間性豊かな人材を育成する。
- ③ ものづくり教育等を通して創造する力を高め、日常の問題を解決し、地域社会に貢献する創造的人材を育成する。

2 中期的目標

1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成

(1) 特色ある総合学科の教育活動を通じて社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の育成を図る。

ア 生徒一人ひとりの学習歴や学力に応じたきめ細かな教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、生徒が学校や社会で困らないために3方面（社会面・学習面・身体面）から支援を行う。

イ 「ものづくり」を通して、将来のキャリア像を現実化と自己肯定感を高めさせる。

ウ 急速なグローバル化により、様々な場面で語学力が要求される時代を生きるために、語学力を活用しコミュニケーション能力の育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「この学校は、他の学校にない特色がある」(R03 75% R04 90% R05 84%)を令和8年度には80%以上を維持する。

(2) 教員のスキルアップにより魅力ある学校づくりをめざす。

ア 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修や、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に取り組み、授業力を向上させる。

イ 内外の研修機会を利用して個々の教員の価値観を広めるとともに、新たな教育実践に挑戦し質の高い学びを提供する。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「授業はわかりやすく楽しい」(R03 74% R04 84% R05 77%)を令和8年度には80%以上にする。

2 基本的生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進

(1) 教育活動全般を通して、基本的生活習慣と公共マナー等の規範意識を育む取組みを推進する。

ア 社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身に付けさせる。

学校に登校できない生徒、学校に来ても授業に入れない生徒に対して、中学校や家庭等と連携することにより指導の充実を図る。

イ 授業以外にも生徒が学校へ来る理由を作り登校習慣を高める。また、中途退学・不登校を未然に防止するため、関係機関との連携やSC、SSW等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する

※中途退学する生徒 (R03 6名 R04 9名 R05 4名)を令和8年度までに6名以下にする。

(2) キャリア教育の推進

ア 探求活動を通じてコミュニケーション力を向上させると共に、ハローワークや地域企業等と連携して、望ましい職業観・勤労観を養い、自己理解を深め、主体的に進路選択をできることをめざす。進路選択支援と就労への準備を進め就職内定率100%維持をめざす。

イ 生徒への進路保障を充実させるために、地域企業との連携や信頼関係づくりに努めるとともに、生徒にライフプランニングを思考させ、職業意識や社会的スキルを高める。

ウ 創造的人格を形成するため、アイデアを形にする方法を習得させ自信を高めチャレンジ精神を養う。

※生徒向け学校教育自己診断において、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答える生徒 (R03 84% R04 90% R05 84%)を令和8年度までに90%以上にする。

(3) 地域連携の推進

ア 地域の学校への出前授業、イベントやボランティア活動に積極的に参加させ、コミュニケーションスキルやボランティア精神を養うと共に、地域に根ざした教育活動を展開する。

※地域イベントや出前授業への生徒の参加を、(R03 0回 R04 4回 R05 1回)令和8年度には年間3回にする。

イ 地域の各種団体との交流を進め広報と地域の情報交換を推進する。

3 安全で安心な学校づくりの推進

(1) 生徒支援体制

ア すべての生徒に対して適切な指導と必要な支援を行い、SC・SSWを活用し自立と社会参加に向けて一貫した教育支援を継続して行う。

イ 教育相談体制を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・支援を行う。

ウ あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上で人権が尊重される心の通う教育を実現する。

※生徒向け学校教育自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒 (R03 55% R04 81% R05 76%)を令和8年度までに80%に引き上げる。

※生徒向け学校教育自己診断において、「人権について学ぶ機会がある」と答える生徒 (R03 81% R04 90% R05 86%)を令和8年度までに90%に引き上げる。

(2) 安心で安全な学校づくり

ア 生徒が安心して授業や実習を受けることができるように、授業を受ける(社会的・設備的)環境を整備する。

イ 災害時における連絡体制の確立と防犯防災教育の充実

※生徒向け学校教育自己診断において、学校安全の項目における肯定率 (R03 84% R04 84% R05 85%)を令和8年度までに90%に引き上げる。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

ア ICT教育を充実し職務の効率化を図る。

イ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ教職員の健康管理体制を充実する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成	(1)基礎的・基本的な学力育成	(1)	(1)	
	ア 個別の指導方法の工夫、教員間で生徒の情報を共有	ア「わかる授業」授業を展開し学習意欲を高め確かな学力を育成する。 ・授業ごとにまとめのレポートや小テストを実施し授業参加の実感と実績を残す。 ・グループワークや調べ学習の活用を促進する。 ・ICT 機器を最大限活用しわかる授業を推進する。 ・実習等の活動できる環境を整備し教育効果を高める。 ・生徒の情報交換の場を設定する。	ア・学校教育自己診断（生徒）結果における授業・評価に関する項目の肯定率 85%以上[81%] ・学校教育自己診断（教員）における ICT を活用した授業に関する肯定率 100%[100%]	
	イ ものづくりを通して、キャリア像を現実化と自己肯定感の向上。	イ ものづくりコンテスト等への出品や各種資格・検定を見通して生徒への自己肯定感と将来の意識づけを行う。	イ・課題研究発表会 1 回 ・技術コンクールや各種競技への参加 2 点[3点]	
	ウ コミュニケーション力の向上	ウ校内外で、他言語を活用したコミュニケーション活動を体験し能力の育成を図る。	ウ・英語検定等受験者 1 名以上[1名] ・学外での活動・地域ボランティア活動 4 回 [4回]	
	(2) 教員のスキルアップにより魅力ある学校づくりをめざす。	(2)	(2)	
	ア 教員のスキルアップ	ア 公開授業週間を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力、指導力の向上に努める。 他校との交流をはかり、授業力・指導力の向上に努める。	ア・公開授業週間 1 回 [1回] ・授業参観週間 1 回 [1回] ・他校教員との交流研修会 1 回[初]	
	イ 質の高い学びの提供	イ授業やHR 等で 1 人 1 台端末を有効活用する機会を増やす。 StudyRoom 利用を推進し、学習する習慣を養う。 校内の職員研修を実施する	イ・StudyRoom 利用者 100 名以上を維持[156名] ・質の高い学びのための校内職員研修会 4 回 [4回]	

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

2 基本的な生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進	<p>(1) 基本的な生活習慣の向上</p> <p>ア 基本的な生活習慣の充実</p> <p>イ 中途退学・不登校防止、生徒の状況に応じた教育活動を推進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校に登校し、授業に出る習慣作り。 ・遅刻・欠席した者への指導。 ・早退防止と授業の出席を促すための当番制度 ・登下校時の校門指導により生徒とのコミュニケーション機会を増やし、生活規律や学習規律などを通じて基本的習慣を身に付けさせる。</p> <p>イ・不登校生徒への家庭連絡、家庭訪問を強化する。 ・SC や SSW の活用を促進し退学生徒を減少する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断（生徒）結果における「登校・クラスの楽しい」項目の肯定率 70% を維持[76%] ・校門指導における遅刻回数 1000 件以下を維持[802 件] ・早退回数 70 件以下を維持[77 件] ・学校教育自己診断（生徒）（保護者）における「学校へ行くことを楽しい」の肯定率を共に 75% を維持[生徒 71% 保護者 75%] イ・退学する生徒 7 名以下を維持[4 名]</p>	
	<p>(2) キャリア教育の推進</p> <p>ア 進路支援体制</p> <p>イ 職業意識の向上</p> <p>ウ チャレンジ精神の育成</p> <p>(3) 地域連携の推進</p> <p>ア 地域貢献活動・ボランティア活動</p> <p>イ 広報活動の充実</p>	<p>(2)</p> <p>ア・探究や HR を通じて就労意欲を高める。 ・地域企業と連携し、就業率向上を図る。</p> <p>イ・外部講師や卒業生講話を実施する。 ・地域企業と連携した職場体験・実習等を実施する。</p> <p>ウ・資格・検定に挑戦させて自信やチャレンジ精神を養う。</p> <p>(3)</p> <p>ア・地域イベント等に積極的に参加協力する。 ・生徒会が主体となった地域清掃活動を実施する</p> <p>イ・中学校訪問の実施（多様な生徒の進学先としての PR） ・地域の団体との連携を実施する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・就職内定率の 100% 維持 [100%] ・10 月時の就業率 65% 以上を維持[65%]</p> <p>イ・職場体験・実習等参加者数 2 名以上[2 名] ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率 85% [83%]</p> <p>ウ・資格・検定合格者のべ 5 人[5 人]</p> <p>(3)</p> <p>ア・出前授業等やイベント等への参加 3 回 [4 回] ・地域清掃活動 4 回[4 回]</p> <p>イ・中学校訪問 10 校以上を維持[14 校] ・学校案内 10 件以上[9 回] 地域の団体連携 1 回[0 回]</p>	

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

<p>3 安全で安心な学校づくりの推進</p>	<p>(1)生徒支援体制 ア 個別の生徒支援 イ 教育相談体制 ウ 人権教育 (2)安全で安心な学校づくり ア 授業環境の整備 イ 防犯防災教育</p>	<p>(1) ア・SC・SSW や外部機関と連携を図りながら、担当分掌が中心的な役割を果たし、生徒支援会議を定期的に行い、ヤングケアラーなど支援を必要とする生徒の情報共有や支援方法を検討する。 イ・生徒が気軽に相談できる教育相談室をめざして環境整備を行う。 ウ・HR や行事等で指導を行い、互いに尊重し合う態度を育成し、いじめ・暴力を許さない環境づくりを行う。 (2) ア・すべての生徒にとって「わかる、できる」授業をめざし、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。 ・実習設備施設共に安全で効果的な環境を整備する。 ・HR 教室及び校内の清掃活動を行い、環境の美化を徹底する。 イ・HR 等で防犯・防災教育を実施する。 ・生徒・教員における災害時の連絡体制を整備する。</p>	<p>(1) ア・生徒支援会議を毎月実施する。年間12回以上維持 [15回] ・SSW による家庭訪問3回以上 [0回] イ・教育相談室来室者60名以上[62人] ・学校教育自己診断における教育相談項目の肯定率(教員)90%[100%]、(生徒)82%以上を維持[85%] ウ・学校教育自己診断(生徒)における人権教育項目の肯定率85% [83%] (2) ア・学校教育自己診断(生徒)における授業改善の肯定率90% [88%] イ・防犯防災教育・避難訓練の実施回数1回 [2回] ・緊急連絡・安否確認訓練1回 [1回]</p>	
<p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) 校務の効率化 ア ICT による校務の効率化 イ 労働安全衛生管理体制の充実</p>	<p>(1) ア・ICT やデジタル教材を活用するなど、校務の効率化を図る。 イ・会議打ち合わせ等の効率化 ・「府立学校における働き方改革に係る取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。 ・会議資料・職員連絡のデジタル化を推進するための環境整備 ・職員の安全衛生環境の向上</p>	<p>(1) ア・ICT 活用における業務効率向上 学校教育自己診断における、「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている。」(教員)100% [100%] 「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」(生徒)85%維持 [84%] イ・年次休暇取得日数平均13日以上 [16.4日] ・学校閉庁日の維持15日[15日] ・職員会議におけるペーパーレスの実現50%以上 [-] ・教員の1人1台端末配備90%以上 [31%] ・職員の安全衛生に関する会議を年10回以上実施 [11回]</p>	